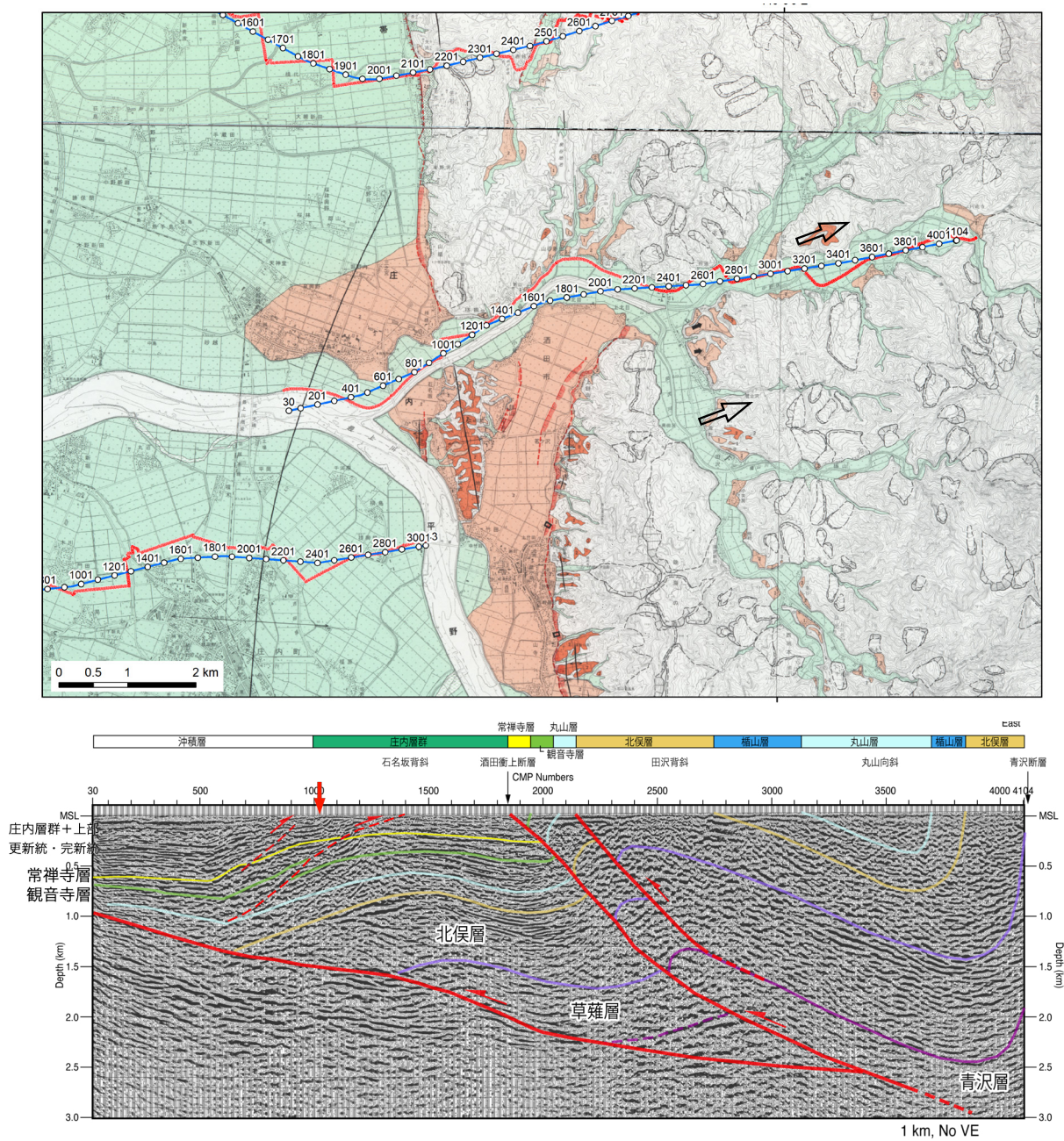
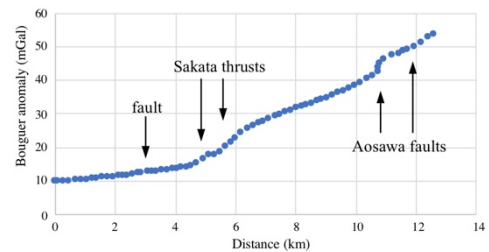
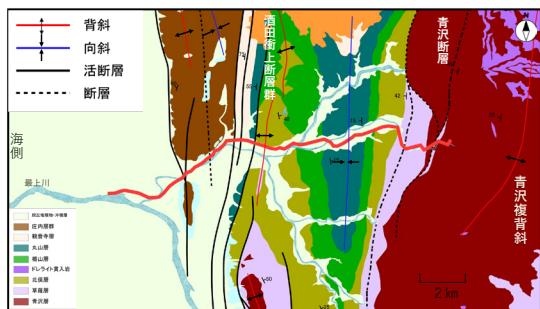
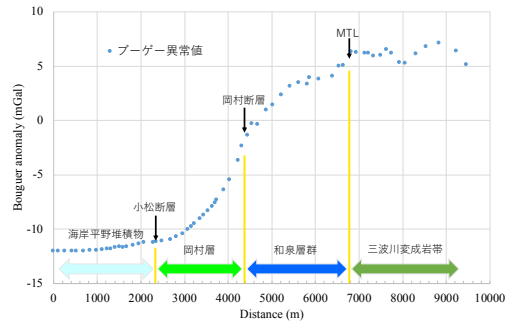
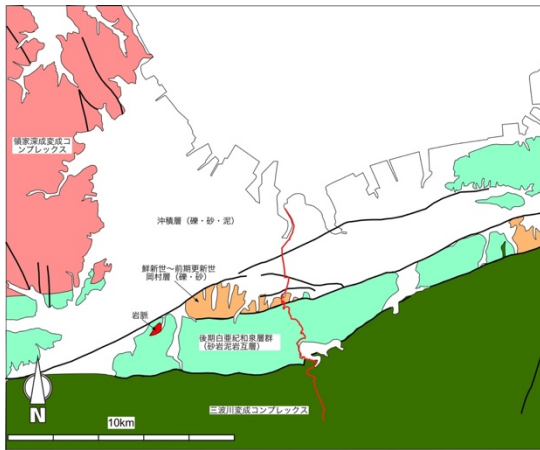
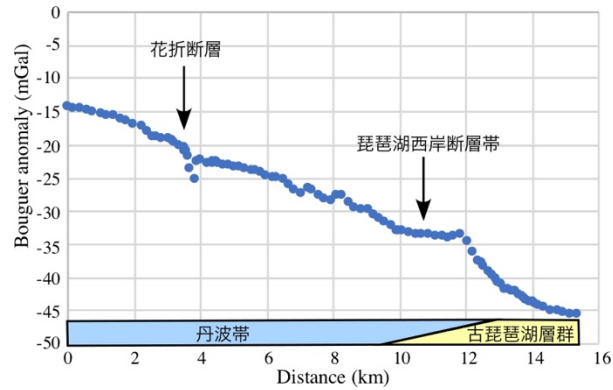
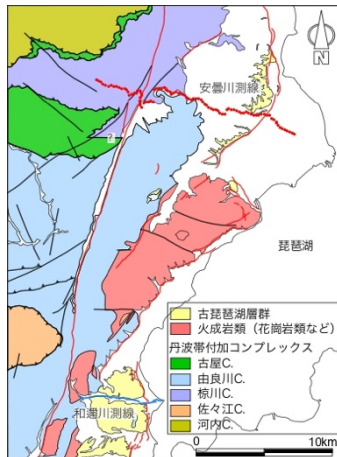


1. 活断層の地表～深部構造および変動地形・地質構造解析



(上) 中野俣測線の重合測線図と (下) 中野俣測線のマイグレーション後深度断面の解釈。赤矢印は出羽丘陵東縁の西向き撓曲崖の位置を示す。背景は都市圏活断層図 (今泉・他, 2007; 東郷・他, 2007) に傾動の記号 (白抜き矢印) を加筆。

2. 活断層の稠密重力探査



(上) 饗庭野測線周辺の地質と重力測定点位置 (左図) およびブーゲー異常 (右図)

安曇川測線の重力測定点を図中の赤丸で示す。地質情報は、中江・他 (2001), 石田・他 (1984), 木村・他 (1998), 中江・他 (1998), 木村・他 (2001), 岡田・他 (2008), 宮内・他 (2004), 堤・他 (2004) に基づく。

(中) 中央構造線を横切る西条測線付近の重力測定点位置と地質 (左図) およびブーゲー異常 (右図)

地質図は、産総研地質調査総合センター (2018) に基づく。

(下) 中野俣測線の重力測定点と地質 (左図) およびブーゲー異常 (右図)

地質情報は、池辺・他 (1979) および土谷 (1989) による。

3. 断層帯の地震波速度構造および地震活動解析

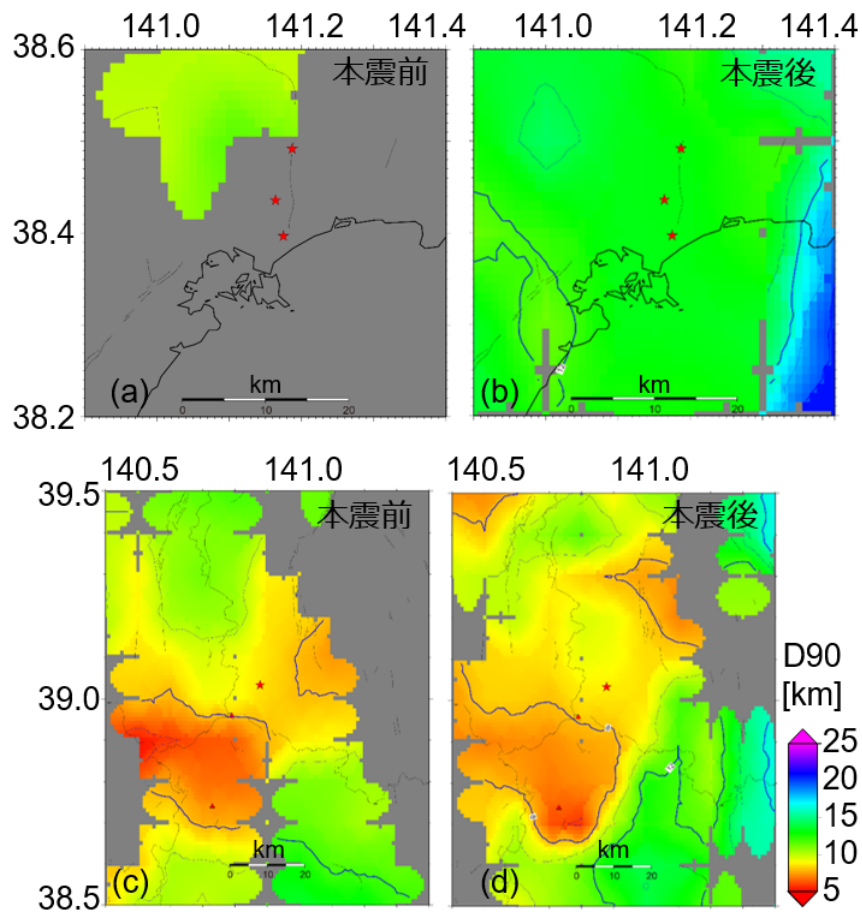


図 (a) (b) 2003 年宮城県北部の地震及び (c) (d) 2008 年岩手・宮城内陸地震の本震の (a) (c) 前と (b) (d) 後の活動から推定した D90 の分布。

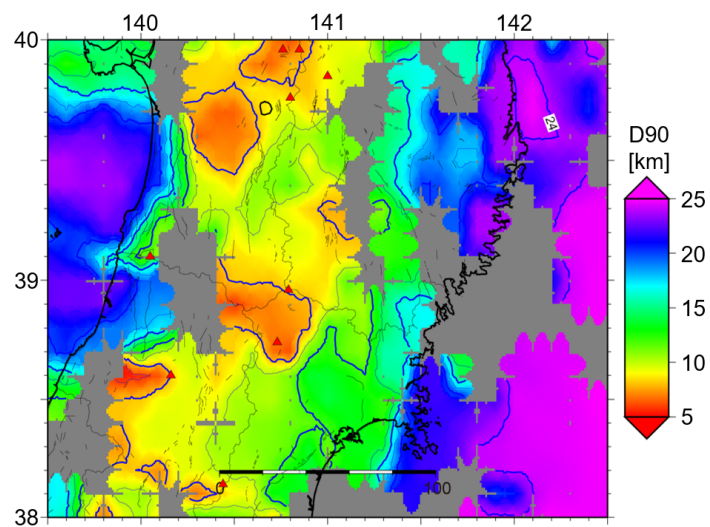
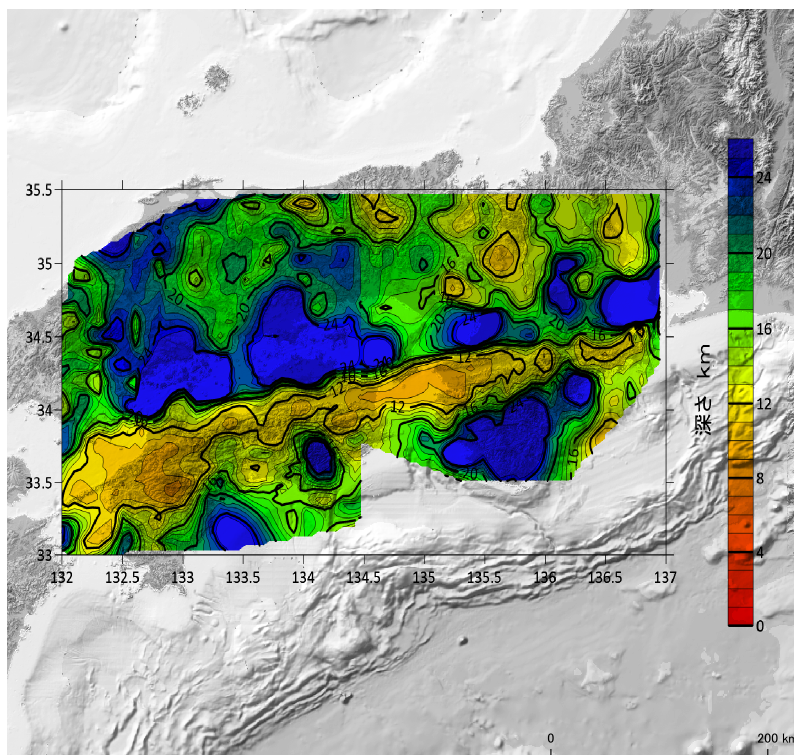
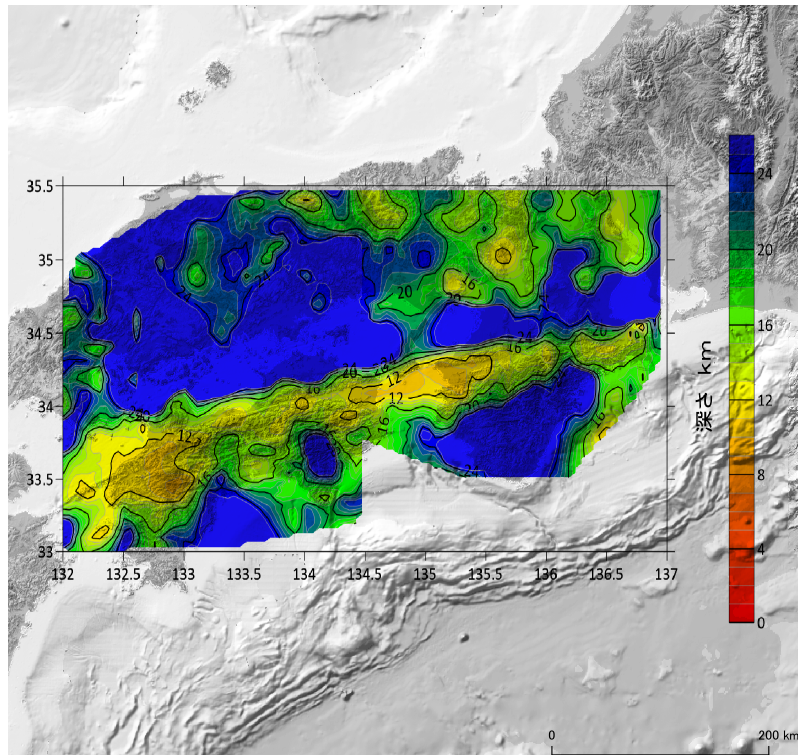


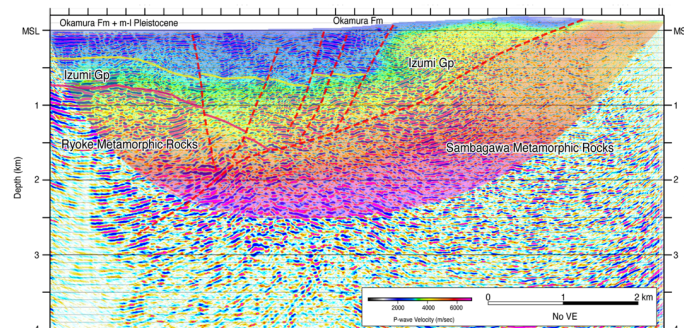
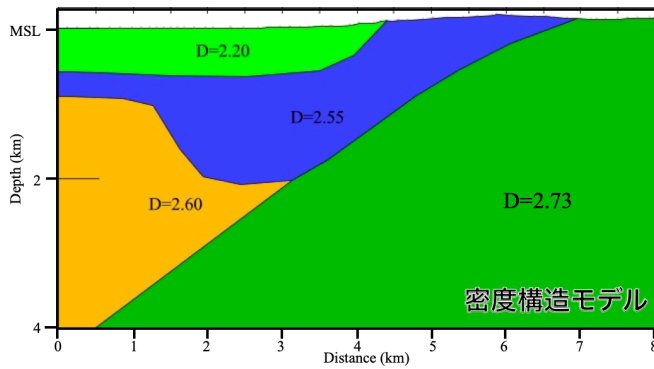
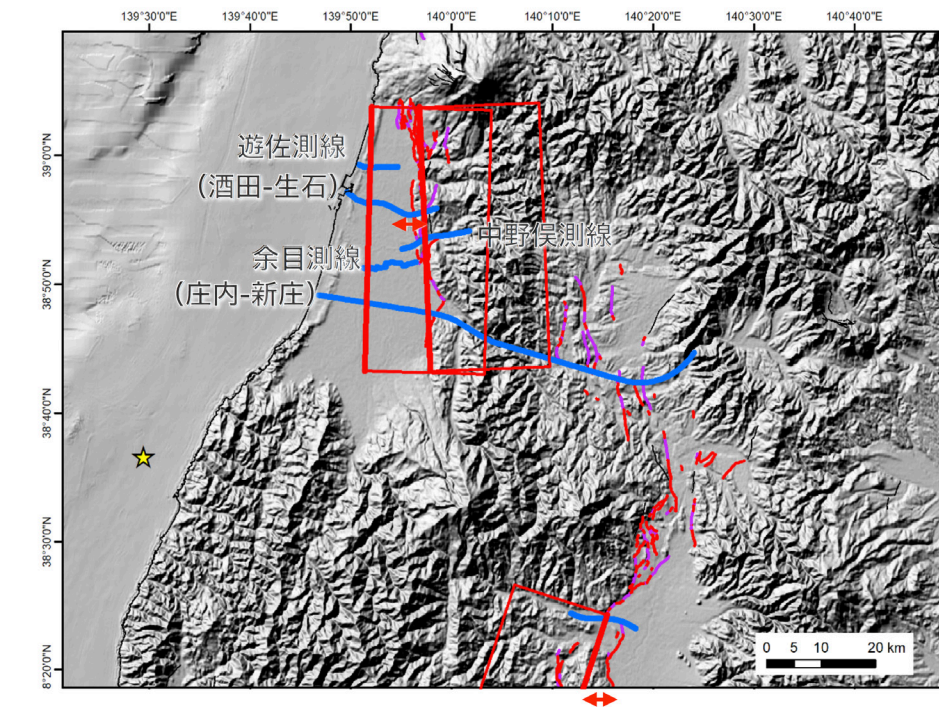
図 東北地方の D90 の分布。

4. 断層帯周辺の岩石物性に基づく地震発生層推定



(上) 四国・中国・近畿地域で推定された 300℃の深さ。(下) 四国・中国・近畿地域で推定された脆性塑性境界の深さ

5. 震源断層モデルの構築と推定手法の検討



(上) 庄内平野東縁断層帯、庄内平野下の伏在活断層、山形盆地西縁断層帯の震源断層モデル。太線が断層の上端を示す。

(左) 中央構造線断層帯、西条測線測線沿いの
(上) 稠密重力測定結果に基づく密度構造モデルと、(下) 反射法地震探査のマイグレーション後深度断面の解釈の比較。